

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2014年5月28日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

住民の生命を守る地域医療の充実を！

日高町国保診療所の入院再開めざし、学習講演会 120名が参加

5月24日、日高町国保診療所の一日も早い病床再開をめざして、大橋晃氏(北海道社協会長・勤医協中央病院名誉院長)を講師に、学習講演会が行われ、地域住民、役場職員、町議など120名が参加し、町議会議長や副町長もあいさつしました。

日高町は、60キロ離れた旧日高町と門別町が飛び地合併しました(右図)が、2年前から日高地域の唯一病床である診療所が休床になり、住民からは不安とともに病床再開が強く求められていました。そのため、「日高町国保診療所入院病床再開させる会」が設立、活動してきましたが、今回学習講演会を開催しました。



大橋晃・道社協会長が講演

「病院や診療所は地域崩壊を防ぐ前提」



大橋氏は、「自治体病院・診療所の役割は」と題して講演し、自治体病院は、「倫理綱領」で、地域住民の健康維持を定められていることを紹介し、自治体は、「地域住民の生命を守る」独自の責務を持っていると説明しました。そして、医師と看護師の不足、国の医療費抑制政策が地域医療の充実、維持をますます困難にしているが、「飛び地合併」という特殊な条件の下で、日高地域には必要最小限の病床が必要であること、そもそも病院・診療所の確保は地域崩壊を防ぐ前提であり、「自治体、医師・医療機関、住民の連携が必要」と、強調しました。

日高地域の参加者からは、「病床再開に向けての方向がわかって、よかった」と明るい感想が述べられました。

総会后、病院存続求め、町長に要望書提出 白老町立病院を守る友の会

白老町立病院の存続を求めて、病院とともに連携して活動が続いている「白老町立病院を守る友の会」(会員812名)は4月26日に、総会を行い、存続のための方針や体制を確認しました。

5月14日には、戸田安彦・白老町長に要望書を提出しました。町長は、守る会を中心とした病院存続に向けた支援活動に感謝し、病院側の積極的な改革にも触れ、「9月に全体的な方向性を出したい」と回答、会の代表が住民の声を反映してほしいと強く述べました。

地域医療縮小、病床削減につながる 医療介護総合推進法案は廃案に

医療介護総合推進法案は、医療分野では、医療機関を縮小し、病床を強制的に削減することもできるものです。法案の参議院の審議入りは6月2日以降になりそうです。国会の会期末は6月22日で、会期はわずかです。



政府、政党・参議院議員へ、要請行動を強めましょう。
週末の大通での宣伝署名行動に参加しましょう

30日(金)は12時30分～ /31日(土)は12時～

生活保護不服審査請求(2回目)は 全道で1151件に

口頭意見陳述【6月19日 13:30～ 札幌市教育文化会館】を成功させましょう。



今年4月からの生活保護費の「引き下げ」に対する不服審査請求は、5月26日時点で、全道で1151世帯になりました(左写真は室蘭での提出の様子)。口頭意見陳述は、6月19日(木)に行われます。傍聴者を募っています。

生活保護支給日宣伝 全道各地で成功させましょう
札幌では、29日(木)10時～ 西区ダイエー琴似店前です。